

令和 2 年度

群馬県公立高等学校

入学者選抜学力検査問題

国 語

(後期選抜)

注 意 事 項

- 1 「始めなさい。」の指示があるまで、問題用紙を開かないこと。
- 2 解答は、全て、解答用紙に記入すること。
- 3 「やめなさい。」の指示があったら、直ちに筆記用具を置き、問題用紙と解答用紙の両方を机の上に置くこと。
- 4 問題は、1 ページから 7 ページまであります。
- 5 解答用紙の、小計の欄には何も書かないこと。

— 次の文章を読んで、後の(一)～(五)の問いに答えなさい。

著作権の關係により本文は省略します。

(伊藤邦武『宇宙はなぜ哲学の問題になるのか』による)

一部省略した箇所がある。

(注) カオス……秩序がなく、物事の境界や順序がはっきりしない状態。

(一) 文中⑦——⑧——の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

(二) 文中□に当てはまる語として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア さらに イ そこで ウ すなわち エ ところで

(三) 文中A——「しかしながら、この見方には一つの大きな問題がありました」とありますが、「一つの大きな問題」とはどのような問題ですか、解答用紙にある「問題」という語につながるように、二十五字以内で書きなさい。

(四) 文中※の部分の段落に見られる表現の効果としてどのようなことが考えられますか、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア 擬音語や大げさな表現を用いて宇宙への希望を抱かせている。

イ 対になる表現を用いて宇宙と哲学との対比を明確にしている。

ウ ひらがなを多く用いて宇宙への親しみやすさを強調している。

エ 比喩や体言止めを用いて宇宙の果てしなさを印象づけている。

(五) 文中B——「そしてこれこそが、西洋近代における宇宙論の変換に

連動して生じた哲学の転換に他ならないのです」について、次の①、②の問いに答えなさい。

① 「西洋近代における宇宙論の変換」とありますが、「地動説」が唱えられるようになる以前は、人間はどのような存在であると考えられており、人々は宇宙をどのようなものとして思い描いていましたか、一文で書きなさい。

② 「これこそが、西洋近代における宇宙論の変換に連動して生じた哲学の転換に他ならないのです」とありますが、本文の内容を踏まえると、宇宙論の変換に伴って哲学はどのように転換していったと考えられますか、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア 宇宙の真理を解明したことに満足し、人間中心の考え方をさらに強めるようになっていった。

イ 宇宙の計り知れなさを実感し、人間の目に見える世界を相対的に捉えるようになっていった。

ウ 太陽の偉大さを痛感し、人間の力を超えた神のような存在について深く追求するようになっていった。

エ 天体の動きは予測できないと悟り、人間が持つ科学的知識に基づいた思考は誤りだと確信するようになっていった。

二 次の文章を読んで、後の(一)～(四)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

著作権の関係により本文は省略します。

(一) 文中A——「父が頭をさげた」とありますが、「祐也」に対して「父」が頭をさげたのはどうしてですか、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 祐也が将棋を続けるという道を閉ざすことになったため。
- イ 祐也の状況を見ていながら何もしてあげられなかったため。
- ウ 祐也の気持ちを考慮せずに勉強を強要することになったため。
- エ 祐也の夢の実現よりも兄の秀也のことを第一に考えていたため。

(二) 文中B——「祐也は顔がほころんだ」とありますが、この時の「祐也」の気持ちとして、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 明るく振る舞う母の様子を見て心が和らぐ気持ち。
- イ 無理をして自分を励まそうとする母に同情する気持ち。
- ウ 自分の心情を察してくれない母に対してあきれられる気持ち。
- エ 自分を子供扱いする母の態度に照れくささを感じる気持ち。

(三) 文中I——「布団をかぶって泣いているうちに眠ってしまった」、ふと目をさますと夜中の一時すぎだった、文中II——「祐也はベッドに横になり、深い眠りに落ちていった」とありますが、IIで眠りに落ちていった時の「祐也」の心情はどのようなものであったと考えられますか、Iで眠ってしまった時と比較して、書きなさい。

(注) 秀也……祐也の兄。

(佐川光晴『駒音高く』による。)

(一) 文中□に当てはまる四字熟語として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 一朝一夕
- イ 一日千秋
- ウ 千差万別
- エ 千載一遇

三 次の文章を読んで、後の(一)~(三)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

(『古本説話集』による。)

(注) 藤六……藤原輔相すけむねのこと。

下衆……身分の低い者。

(一) 文中——「誓ひ」を現代仮名遣いで書きなさい。ただし、全て平仮名で書くこと。

(二) 文中——A~Dの中には、一つだけ他のものと主語が異なるものがあります。主語が異なるものを、A~Dから選びなさい。

(三) 次の会話文は、竹志さんたちが、本文について話し合った会話の一部です。これを読んで、後の①、②の問いに答えなさい。

竹志さん 「藤六」は、ユーモアに富んだ歌を詠む歌人として知られていたんだってね。

小梅さん うん。だから突然、「家主の女」に「歌詠み給へ」なんて言われたわけよね。ところで、「藤六」が詠んだ歌の中で、急に「阿弥陀仏」が出てきたのはどうしてだろう。

松子さん 「阿弥陀仏」は、地獄で苦しむ罪人にさえも救いの手を差し伸べる慈悲深い仏様のことよね。だから、「煮ゆる物をばすくふ」とは、阿弥陀仏が地獄の釜で煮られる人を救うという意味でしょ。

竹志さん あ、そうか。それと、「藤六」自身がした I という行為が重ねられているということだね。

小梅さん なるほど。そう考えると、おもしろい歌だね。この歌は、II 詠まれた歌なのかもしれないね。

① 会話文中 I に当てはまる内容を、本文から考えて、現代語で書きなさい。

② 会話文中 II に当てはまる内容として、次のア~エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 不利な立場でも、相手への攻撃を続けるために
- イ 逃げ場のない状況で、罪を見逃してもらうために
- ウ 悪いことをしたのに、他人に罪をなすりつけるために
- エ 阿弥陀仏に対して、心を入れ替えると表明するために

四 次の文章は、漢文を書き下し文に書き改めたものです。これを読んで、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

著作権の関係により本文は省略します。

〔淮南子〕による。

(注) 夫れ……そもそも。

遊ぶ……「泳ぐ」に同じ。

(一) 文中 には、「好^ム 事^ヲ 者^ハ」の書き下し文が入ります。

に当てはまる書き下し文を書きなさい。

(二) 文中「利を争ふ者」の意味として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 利害関係を無視する者
- イ 利用方法に口をはさむ者
- ウ 利益を勝ち取ろうとする者
- エ 不利な状況にも屈しない者

(三) 本文から読み取れることとして、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

- ア 急いで何かをしようとする、かえって時間がかかってしまうものだということ。
- イ 他人に自慢したいと思う話題は、かえって他人から敬遠されるものだということ。
- ウ 自分が無理をすることで、かえって周りに迷惑をかけてしまうものだということ。
- エ 自分が得意だと考えている事柄のほうが、かえって良くない結果を生むものだということ。

五 次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①～④の——の平仮名の部分を漢字で、または漢字に送り仮名を付けて書きなさい。

- ① おうふくはがきで送る。
- ② 情報のかくさんを防ぐ。
- ③ 彼はほがらかな人だ。
- ④ 世界一周をこころみる。

(二) 次の漢字の部首名を書きなさい。また、この漢字を楷書で書いた場合の総画数を書きなさい。

簡

六 次の会話文は、季節に関する言葉について調べたことを発表するという活動に向け、花子さんと太郎さんが話し合った会話の一部です。これを読んで、後の(一)～(三)の問いに答えなさい。

花子さん 国語の授業で勉強した俳句の季語についてさらに調べてみたら、「小春」は春を指す言葉ではないことが分かったわ。

太郎さん え、そうなの。僕は、春になって間もない頃を指す言葉かと思っていたよ。

花子さん 辞書によると、「小春」は「陰暦十月の別称」とあったから、現在の十一月頃かしら。「冬の初めの頃の、穏やかで暖かな天気」のことを「小春日和」と呼ぶとも書いてあったわ。

太郎さん へえ、そうなんだ。でも、十一月ってこれから本格的な冬が始まる前だよ。それなのに、どうして「小さい春」って書くんだろう。

花子さん 実は、「小」の意味は、単に「小さい」だけではなく、名詞に付く場合、「〜のような、〜と似ている」という意味で用いることもあるみたい。^A「小春」はその一つの例だと思っわ。

太郎さん なるほど。おもしろいな。それじゃあ、今回の発表では、「小春」を取り上げるといふのはどうかな。

花子さん そうね。いいと思うわ。^B発表するにあたって、何か工夫できることがあるといいわね。

(一) 会話文中A——について、「小春」の「小」と同じような意味で「小」の字が用いられている語を含むものとして、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア 家の近くに小川がある。

イ 彼女は小銭を貯金箱に入れた。

ウ 今年、私の妹が小学校を卒業する。

エ ここは、瀬戸内の小京都と呼ばれる場所だ。

(二) 会話文中B——について、太郎さんは、正岡子規の「桜にもまざる紅葉の小春かな」という俳句を見つけました。二人はこの句について話し合い、この句を発表の冒頭で用いるのが効果的だろうと考えました。二人がこの句を発表の冒頭で聞き手に示そうとした理由として、次のア～エから最も適切なものを選びなさい。

ア 「小春」の意味を誤解している人に気づいてほしいと考えたため。

イ 「小春」という語が持つ意味の多様さを示す例になると考えたため。

ウ 「小春」は俳句を作る人でも間違いやすいと訴えようと考えたため。

エ 「小春」が持つ初春のイメージをよく伝える具体例だと考えたため。

(三) 春に関する言葉のうち、「春分」、「若草」、「山笑う」の中の一つについて発表するとしたら、あなたはどの言葉について詳しく調べ、発表したいと考えますか。あなたがその言葉について発表したいと考えた理由を、その言葉から受けるイメージに触れ、百四十文字以上、百八十文字以内で書きなさい。なお、選んだ言葉に○を付けること。